

記事を読んで、問いに答えましょう。

2021年12月9日朝刊

県は8日、県農林技術研究所果樹研究センター（静岡市清水区）が開発した、温暖な気候に耐性のある新品種の温州（うんしゅう）ミカンを「春しずか」と命名したと発表した。収穫時期が通常のミカンより約1カ月遅く、長期貯蔵も可能なことから、ミカンが品

薄となる春先の出荷が期待できる。2023年度に品種登録し、27年度に一般販売の開始を計画する。浜松市三ヶ日や静岡市清水区などで試験栽培に取り組み、来年度から県内農家向けに苗を生産、販売していく。

夫で、気温が上がると果皮と果肉が分離する「浮き皮」が発生しにくいのが特徴。果実の成熟が遅く、長期熟成しても糖度や酸味を本県産の主力品種「青島温州」と同水準に保てることで、ミカンの流通量が減少する3〜4月に販売することができ



温州ミカンの新品種「春しずか」

年末から翌年2月に生産のピークを迎える青島は近年の気候変動の影響で、浮き皮が目立つようになってきている。繁忙期が集中することで、収穫に必要な人手の不足も深刻化している。春しずかの開発は、01年度から同センターと理化学研究所が共同で進め、18年度に育成する品種を選抜した。県は、県内のミカン樹木は高齢化が進んでいることから、青島を補完する品種として植え替えを提案していく。「高単価で市場に売り出し、労働力分散にもつながる期待がある」（農業振興課）としている。

（経済部・平野慧）

新品種名「春しずか」

県開発ミカン 春先出荷に期待

①県が開発した新品種のミカンの名前を書きましょう。

()

②この新品種の収穫時期が通常のミカン（青島温州）より約1カ月遅いことのメリットを書きましょう。

[]

③県が植え替えを提案しているのはなぜですか。2つ書きましょう。

[]

[]

年 組 名前

記事を読んで、問いに答えましょう。

解答例

2021年12月9日朝刊

県は8日、県農林技術研究所果樹研究センター（静岡市清水区）が開発した、温暖な気候に耐性のある新品種の温州（うんしゅう）ミカンを「春しずか」と命名したと発表した。収穫時期が通常のミカンより約1カ月遅く、長期貯蔵も可能なことから、ミカンが品

薄となる春先の出荷が期待できる。2023年度に品種登録し、27年度に一般販売の開始を計画する。浜松市三ヶ日や静岡市清水区などで試験栽培に取り組み、来年度から県内農家向けに苗を生産、販売していく。

夫で、気温が上がると果皮と果肉が分離する「浮き皮」が発生しにくいのが特徴。果実の成熟が遅く、長期熟成しても糖度や酸味を本県産の主力品種「青島温州」と同水準に保てることで、ミカンの流通量が減少する3〜4月に販売することができる。

新品種名「春しずか」 県開発ミカン 春先出荷に期待



温州ミカンの新品種「春しずか」

年末から翌年2月に生産のピークを迎える青島は近年の気候変動の影響で、浮き皮が目立つようになってきている。繁忙期が集中することで、収穫に必

要な人手の不足も深刻化している。春しずかの開発は、01年度から同センターと理化学研究所が共同で進め、18年度に育成する品種を選抜した。県は、県内のミカン樹木は高齢化が進んでいることから、青島を補完する品種として植え替えを提案していく。「高単価で市場に売り出し、労働力分散にもつながる期待がある」（農業振興課）としている。

（経済部・平野慧）

①県が開発した新品種のミカンの名前を書きましょう。

(**春しずか**)

②この新品種の収穫時期が通常のミカン（青島温州）より約1カ月遅いことのメリットを書きましょう。

主力品種「青島温州」が年末から翌年2月にピークを迎え、その後ミカンの流通量が減少する3〜4月に販売することができる。

③県が植え替えを提案しているのはなぜですか。2つ書きましょう。

・県内のミカン樹木が老齢化が進んでいるから。

・近年、青島温州が気候変動の影響で浮き皮が目立つようになってきたから。

・収穫時期をずらすことで、高価格で市場に売り出せるから。

から2つ書く

年 組 名前